



～枕崎市教育委員会だより～

TEAMまくらざき

発行 枕崎市教育委員会
枕崎市中央町 184 番地
TEL 0993-72-0170
FAX 0993-72-0677

巻頭言

備える

枕崎市教育委員会 教育長 木之下 浩一

幕末、ある人が「西郷(西郷隆盛)どん、今日はぬっか(暑い)なあ」と挨拶をしたら、西郷さんは、「よう(うん)。夏やっでよ(夏だからね)」と、「夏は暑いに決まっているじゃないか」というニュアンスの答えを、平然としたという。しかし、今年の夏は一段と暑いので、西郷どんが今夏、生存していたら、おそらく、「おう(うん)。まっこてぬっかね(本当に暑いね)。参っど(バテそうだ)。」と言ったかもしれない。

さて、今夏は「猛暑」よりは、「酷暑」という言葉がよく聞かれた。地理的にいえば、赤道が北上してきたのではなかろうかと思うぐらい、台風の数も多かった。また、発生位置が小笠原近海だったり、進行方向が関東や東北沖の太平洋から日本海を抜けるルートだったりと異例尽くしである。さらに、その台風の影響で千葉県では浸水などの水害も起こり、多くの車が水没するなど、これまでの危機管理の常識を超えた。

ところで、平穏な日々が続くと、「今日も大丈夫だろう」と考えがちだが、災害は私たちの都合に合わせてはくれない。地震や台風、豪雨による水害や土砂災害など、私たちはこれまでに多くの自然災害の脅威を経験してきた。そのたびに強く認識させられるのは、「いつ何が起こるかわからない」という前提に立って日頃から有事に備えることの重要性である。学校においても同様に、事故や不審者対応、火災、地震等は予測できるものではない。

だからこそ平時から、避難経路や連絡体制、役割分担、備蓄の確認を行い、「もし、今何か起こったらどう対応するか」を具体的に想定しておくことが求められる。

危機管理とは「発生後に対応すること」ではなく、「発生する可能性を前提として事前に備える」ことだ。備えそのものが災害を防ぐわけではないが、備えの有無が冷静な判断や行動の質を大きく左右する。また、備えは物的な準備にとどまらず、日頃の児童生徒の見守り、教職員間の連携、保護者や地域との関係構築といった形のない日常的な取組も含まれる。危機管理とは平時の取組を着実に積み重ねることそのものであると、私は考える。

何も起こらない期間が続くほど備えは形骸化しやすくなるが、だからこそ意識と点検の継続が重要である。「災害は忘れたころにやってくる」と言われるように、常に危機意識をもち続ける必要がある。

学校において、子供たちの命を守る教職員には、「多分、大丈夫」という考えではなく、「万が一に備える」という姿勢が不可欠である。何もない一日への感謝を忘れずに日々の備えを改めて見直してほしいと思う。備えることは恐れることではなく、安心を確保するための行動である。今こそ備えを再点検し、安全・安心な学校づくりにつなげていきたい。

備えだけは決して怠ってはならない。

9月の行事予定

日	曜	行 事
1	火	小・中学校始業式・2学期給食開始
2	水	
3	木	
4	金	市理科作品審査会
5	土	高等学校体育祭
6	日	
7	月	高齢者学級合同交流学習会 図書館休館日
8	火	教育支援委員会② 市子連理事会③
9	水	第3回事務職員研修会 地区館連絡会④ 小学校体育主任研修会
10	木	市作文審査会
11	金	
12	土	
13	日	中学校体育大会
14	月	図書館休館日
15	火	
16	水	南薩地区社会教育委員研修会(市民会館)
17	木	
18	金	市生徒指導主任等研修会② 市民あいさつ運動 いじめ問題専門委員会
19	土	青少年育成の日
20	日	家庭の日 市民会館休館日
21	月	敬老の日
22	火	国民の祝日
23	水	秋分の日

24	木	図書館休館日
25	金	特別支援学級担任等研修会② 図書館内整理日
26	土	
27	日	
28	月	図書館休館日
29	火	県市町村教育長会第3回役員会・第2回専門部委員会 秋の教育相談会① 第2回読み聞かせボランティアグループ連絡会
30	水	地区研究協力校研究公開「小中連携教育」 (桜山小・桜山中)

第35回かつお釣り体験アドベンチャー



となりました。本事業の実施にあたり、多大なご協力をいただいた鹿児島水産高校の皆様に、心より感謝申し上げます。

7月22日に実施した「かつお釣り体験アドベンチャー」には、市内の中学生8人が参加しました。

当日は、鹿児島水産高校の協力のもと、枕崎港から実習船「拓青（たくせい）」に乗り込み、沖合の漁場へ出発。枕崎を代表する漁業の一つであるかつおの一本釣りに挑戦しました。

トローリングで魚がかかると、船員の笛が鳴り、それを合図に一斉に竿を出して一本釣りに挑戦。船上では緊張感と期待が高まり、参加した中学生たちは本物の漁の雰囲気を感じました。

今回の体験を通して、漁業に携わる方々の仕事や工夫に触れるとともに、ふるさと枕崎の海や水産業を身近に感じ、その魅力を改めて知る貴重な機会

第71回枕崎市少年野球大会

選手たちは、これまでの練習の成果を発揮し、投打にわたって白熱した試合を繰り広げました。仲間と声を掛け合いながら最後まで全力でプレーする姿や、相手チームの健闘をたたえる姿も見られ、野球をきっかけに交流を深める機会となりました。

また、地域の方々や保護者からも温かい声援が送られ、選手たちは多くの応援を力に変えて、元気いっぱいにグラウンドを駆け回りました。大会を主催し、準備・運営にご尽力いただいた自治公民館連絡協議会の皆様をはじめ、御協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。



優勝：通山区
準優勝：大堀・下野原
3位：塩屋、桜山東

夏の教育相談会

今年も8月上旬(8/3～8/6)に、未就学児から中学生まで、延べ43組の就学に係る教育相談を実施しました。相談会では、現在の子供についての相談と共に、適切な「学びの場」について、経験豊富な相談員と共に検討しました。

今は、同じ教室で全員が学ぶだけでなく、「通級指導教室」や「特別支援学級」など、一人一人の個性に応じた学びの場が用意されています。学びの場について理解を深めることで、子供が安心して力を発揮できる環境を選択することができます。

こうした相談を通して、保護者の方々が子供の特性や得手・不得手を改めて見つめ直し、園や学校と連携しながら最適な学びについて考える機会となりました。枕崎市では、今後も子供一人一人の成長を支えるために、関係機関が協力し合いながら、切れ目のない支援体制を整えていきます。

市授業力向上ブラッシュアップセミナー・市教育講演会

枕崎市では、学校の先生方が夏季休業中に学びを深め、2学期からのより良い学習指導を展開できるよう、毎年「ブラッシュアップセミナー」を開催しています。

今年度の第1部では、市内の2名の先生方に、これまでの研修や実践の成果について報告していただきました。第2部では講師を招き、教育講演会を実施しました。

教育講演会では、社会福祉法人麦の芽福祉会理事長の「米衛政光先生」を講師にお迎えし、「問題行動をどう読み解くか」をテーマに、児童生徒の行動を善悪の二元論で捉えるのではなく、背景にある子供の思いや状況を理解し、寄り添いながら解決へ導くための視点について学びました。

なお、本年度は教育講演会を一般にも公開し、多くの皆様に御参加いただきました。御参加いただいた皆様、ありがとうございました。



～シリーズ特別支援教育～「子供を地域で支える」

「なんでできないの。」

このような言葉は、子供を追い詰める言葉です。できない理由には、必ず背景があります。特別支援教育では、行動の裏にある困りごとを読み取り、「どうすればできるか」を一緒に探すことを大切にしています。

子供は一人一人、得意なやり方が違います。環境を整えたり、学び方を工夫したりすることで、その子が力を発揮できる方法が必ず見つかります。できないことを責めるのではなく、できる方法を支えること。それが、すべての子供に必要な教育の姿であり、安心して学べる土台になります。

そのためには、適切な情報交換が必要です。子供のことで困ったら、保護者、園、学校が、お互いに手を差し伸べられる関係を作り上げ、子供に寄り添って支援していきましょう。